

平成 30 年度第 9 回価格審査会の開催について

平成 30 年度第 9 回価格審査会が開催されましたので、議事概要についてお知らせいたします。

この価格審査会は、当財団の価格情報誌の発行前にその掲載価格の妥当性等について、外部の有識者によって審査を行うものです。

開催日時	平成 30 年 12 月 14 日(金) 10 : 00 ~ 12 : 00	
場 所	一般財団法人建設物価調査会 会議室	
委 員	田中 弘	日本工営株式会社 参与 技術本部 技師長
	関口 司	東日本旅客鉄道株式会社 東京工事事務所 次長
	森田 義則	一般財団法人日本建設情報総合センター システム事業部門 コリンズ・テクリスセンター長
	柳 泰彦	株式会社日本設計 コスト設計部長
当 会	共通資材調査部	部長：大谷 忠広、次長：川野辺 豊、課長：佐藤 良久
	第一土木調査部	部長：高橋 俊一
	建築調査部	部長：加納 慎二、課長：島田 理久
	監査審査室	室長：後藤 裕
	調査統括部(事務局)	部長：鈴木 昌樹、次長：古井戸 宏、課長：菊池 信博

平成 30 年度第 8 回価格審査会議事録(案) 確認

平成 30 年度第 9 回価格審査会審議資料説明

審議資料の説明

1. 「建設物価」1月号、「Web 建設物価」1月号、

「土木コスト情報」冬号、「建築コスト情報」冬号の価格動向

- ・ 価格が上昇した資材は、異形棒鋼（近畿、中国、四国の各都市）、H形鋼（近畿、中部、中国、沖縄を除く各都市）、セメント（バラ）（大津、京都、神戸、奈良、徳島、高松、松山、福岡、鹿児島）、レディーミクストコンクリート（由利本荘A、大仙、市川、船橋、東京、長野A、上田、新見、宇部、萩A、長門、山陽小野田）、再生砕石・再生砂（二戸、八幡平B）、コンクリート型枠用合板（北海道、東北、関東、近畿、四国の各都市）、ストレートアスファルト・アスファルト乳剤（那覇）、遠心力鉄筋コンクリート管（北海道の各都市）、非鉄スクラップ【鉛】（東京、名古屋）などであることを説明。
- ・ 価格が下落した資材は、伸銅品（札幌、東京、名古屋、大阪、福岡）レディーミクストコンクリート（大船渡）、燃料油【軽油ローリー渡し】（全都市）鉄スクラップ【鉄】（全都市）、非鉄スクラップ【銅】（東京、高松、福岡）などであることを説明。
- ・ 価格が上昇した工事費は、【土木コスト情報】鉄筋工（北海道、福井、九州の各県）、インターロッキングブロック工（東北、関東、北陸、中国の各県、沖縄）、【建築コスト情報】鉄筋工事（札幌、福井、那覇、中部、九州の各都市）、コンクリート工事【ポンプ圧送】（新潟、広島、福岡、那覇）、塗装工事（沖縄を除く全都市）、保温工事【ダクト】（仙台、東京、大阪、福岡）、衛生器具取付費（仙台、東京、大阪、福岡）などであることを説明。
- ・ 価格が下落した工事費は、型枠工事（盛岡、仙台、秋田、山形、福島）などであることを説明。

審議資料の説明		
2. 注目資材 ・ コンクリート型枠用合板【東京】、鉄スクラップ【東京】 3. 比較資料 ・ 企業物価指数、モニター調査結果、業界紙との比較結果について説明。		
審議事項	委員の意見、質問	建設物価調査会説明・回答
審議 1	東京地区では、鉄スクラップは下落したが、H形鋼は上伸、異形棒鋼は横ばいとなっている。鋼材類は鉄スクラップと同様に下落しないのか。	鉄スクラップは下落したが、電炉メーカーは、電極などの副資材価格や輸送コストの上昇などを理由に強い売り腰を維持している。但し、今後も鉄スクラップの下落が続けば、メーカーの売り腰が弱まることも予想されるが、先行きの動向は不透明である。
審議 2	建築工事市場単価の上伸理由には「労働需給ひっ迫に伴う値上げが浸透」が多く、土木工事標準単価の変動理由には「燃料費の変動」が多い。理由が異なるのはなぜか。	建築工事市場単価は元下間の取引価格を調査しており、土木工事標準単価は施工歩掛を調査し、都道府県別に労務単価、材料単価、機械経費を積み上げて算出している。建築工事市場単価の上伸は、労働需給ひっ迫に伴う専門工事業者の値上げを総合建設業者（元請業者）が受け入れたことによる。土木工事標準単価の変動は、機械経費の燃料費（軽油）が変動したことによる。
審議 3	コンクリート用砕石の主な需要家は生コンメーカーで、道路用砕石の主な需要家は建設会社だと思われるが、道路用砕石の方が競争は激しく価格が変動しやすいのか。	生コンメーカーの多くは協同組合を設立し共同販売を行っているが、コンクリート用砕石などの原材料はメーカー毎に調達するのが一般的である。コンクリート用砕石、道路用砕石とも相対取引となるため、道路用砕石の方が、特に価格変動が激しいとも言い切れない。
審議 4	鉄スクラップの国内相場が海外相場に比べて割高となった背景は何か。	国内の堅調な鋼材需要に対応するため、電炉メーカーは買入価格を引き上げ鉄スクラップの確保に動いた。一方、海外需要が不調で輸出量が減少していることから輸出価格は下落し、国内相場に割高観が強まった。
審議 5	ランナー、スタッドなど軽量鉄骨の材料費は上昇しているが、市場単価の軽量鉄骨下地工事に値動きがみられないのはなぜか。	市場単価の軽量鉄骨下地工事は、前号で労働需給ひっ迫を背景に上伸している。今回の調査では、材料費の上昇が軽量鉄骨工事の上伸には結びつかなかった。
審議 6	ランナー、スタッドなど材料が値上がりした理由はなにか。	メーカーが値上げを打ち出していたが、旺盛な需要を背景に値上げが浸透したことによる。
審議 7	先月に話題となった高力ボルトの品不足は、現在どのような状況か。	需給がひっ迫している状況は、先月と変わっていない。
審議結果	「建設物価」1月号、「Web 建設物価」1月号、「土木コスト情報」冬号、「建築コスト情報」冬号の価格動向に問題はなかった。	